

製造業の未来を支える技術とソリューションで、 お客さまの価値創造に貢献してまいります

株主の皆さまには、平素のご厚情に心より御礼申し上げます。第50期中間ビジネスレポートをお届けするにあたり、業績および事業活動に関してご報告いたします。

代表取締役社長 **勝部 孔也**



業績について

当中間期の経済環境につきましては、米国通商政策の影響が見通せないことなどから先行きの不透明感は続いているものの、全体としては緩やかな回復基調で推移しました。製造業におけるDXへの取り組みは継続しており、当社グループの主要なお客さまであるエレクトロニクス製造業、自動車関連・産業機器製造業におきましても、DXに向けたIT投資は活発な状況が続いています。

このような中で、当中間期の売上高は、194億5千4百万

円（前年同期比 2.0%増）となり、過去最高を更新いたしました。これは、主力の電気設計システム「CR-8000 Design Force」の売上が日本において大きく伸長したことや、データ管理システムDSシリーズの売上が欧州を中心に堅調に推移したことなどによるものです。

利益面につきましては、将来に向けた開発投資により経費が増加したものの、売上高が伸びたことなどから、営業利益23億7千1百万円（前年同期比 2.1%増）、経常利益29億5千8百万円（前年同期比 19.1%増）、親会社株主に帰属する中間

純利益20億9千5百万円（前年同期比 28.7%増）と、いずれも過去最高を更新しました。

第50期（2026年3月期）中間期業績（）は前年同期比		
売上高	194億5千4百万円	（2.0%増）
経常利益	29億5千8百万円	（19.1%増）
親会社株主に帰属する中間純利益	20億9千5百万円	（28.7%増）

株主還元策について

当社は、来たる2026年12月17日をもちまして創立50周年を迎えます。これもひとえに株主の皆さまをはじめ、関係各位のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

つきましては、株主の皆さまに感謝の意を表するため、2026年3月期の期末配当金につきましては、1株当たり100円の創立50周年記念配当の実施を予定しております。これにより、期末配当金は普通配当50円を含めまして1株につき150円に、中間配当金（1株につき50円）を含めた年間配当金は、1株につき200円とさせていただきます。

なお、自己株式の取得につきましても、当期中に30億円、75万株を上限として実施しています。

今後の取り組みについて

昨今の急速な技術革新は、モノづくり環境に大きな影響を与えています。特にAI技術の進化は、次世代半導体など、先端エレクトロニクス技術の開発を加速させるとともに、製品開発プロセスにも変化をもたらしています。

モノづくり企業は、製品のシステム要件が複雑化・高度化する中、効率的に最適解を導くため、構想設計のデジタル化を起点とした設計・製造プロセス全体のDXへの取り組みを進めています。

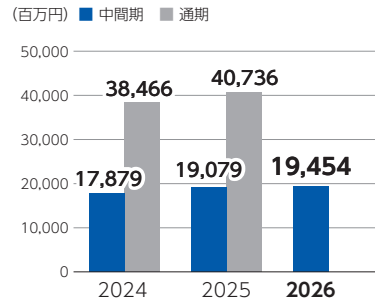
当社は、こうした市場動向とお客さまのニーズを的確に捉え、次世代半導体の先端パッケージング技術の開発支援を強化するとともに、MBSE[※]を中核としたソリューションの提案に積極的に取り組んでまいります。そして、国内外の市場において、お客さまの価値創造に一層貢献してまいります。

株主の皆さまには、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

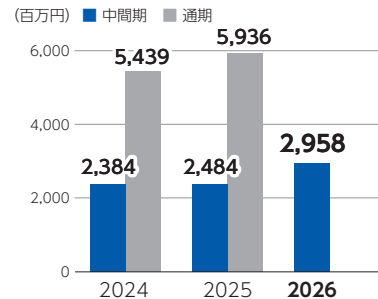
※MBSE(モデルベース・システムズエンジニアリング)：複雑な製品やシステムの開発において、仕様や要件、設計情報をデジタルモデルで可視化・一元管理し、開発の効率化と品質向上を図る手法

連結財務ハイライト

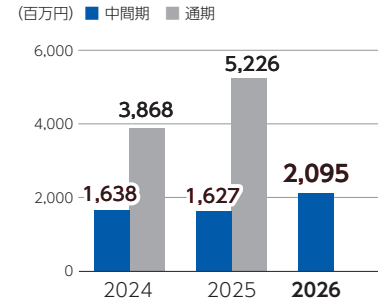
売上高



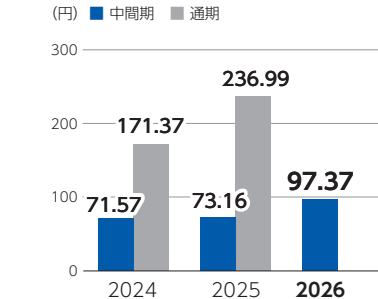
経常利益



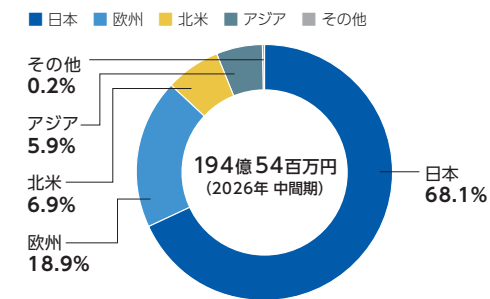
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



1株当たり中間(当期)純利益



地域別売上高



配当金の推移

